

不易流行の家づくり

HOPグループ代表CEO 石出 和博

—ふえきりゆうこう—

森の朝。

昇る太陽が大地を照らすにつれ、木々の枝葉はそよぎ、鳥や虫たちがせわしげに活動をはじめます。

大きく俯瞰すれば森の営み自体は何十年と変わらずに見えますが、森の細部は小さな生命たちによって絶えず変化を続けています。

木々たちは競うように葉を一杯に広げ、光を求め、時にはその枝を自ら落とします。

彼らの生の営みは、めまぐるしい変化の渦の中で、輝きを増していきます。

森は変化することによって進化し、生まれ変わるることによってその美しさを保っているのです。

これを俳諧の世界では不易流行と言いました。

芸術やものづくりにおいても古くからこの志向が求められてきました。

本物の伝統とは、単なる様式や意匠の伝承の事ではなく、長い歳月をかけて新しさを磨き、変化を重ね、時代の流れの中で再生され残されてきたものなのです。

私たちの家づくりにおいても様式や伝統の基本の中に、更にモダンな精神を志向し積極的に変化させ、次の伝統に繋がる家づくりに挑戦しなければ建築家として意味が無いと思います。

この時代に生きた証としての使命感というか、覚悟というか、そんなうぬぼれに似た自己鍛錬がなければ建築などやるべきでないし、この歳になつて思うようになりました。

大きいかもしませんが、この時代の中で家を創るということは、大自然の恩恵を受け、それを生かし、人を幸せにし、次に繋ぐ文化を創る。

建築をつくることは未来をつくること、そのものだと思うのです。

石出 和博 いしで かずひろ

建築家、一級建築士事務所アトリエアム株式会社代表取締役所長。HOPグループ代表CEO。

1989年一級建築士事務所アトリエアム設立、気鋭の建築家集団を率いて全国で作品を発表。1996年、林野庁と北海道の支援を受け、国産材の確保から製材、設計、建築までを協業化した新しい住宅供給システムHOP(ハウジングオペレーション)を設立、現在にいたる。

主な受賞 / 2000年 北の企業家奨励賞、2001年 林野庁長官賞、2006年 経済産業大臣賞(消費者志向優良企業)、2010年 経済産業省ジャパンベンチャーアワード環境特別賞受賞。

著書 / フォトエッセイ集「こころ紀行」、家を建てる前に読む本「ハウスクター診察室」、「石出和博とアトリエアムの世界」(ART BOX社)がある。



photo : KAZUHIRO ISHIDE